

編集後記

多根総合病院 副院長 小川 竜介

今年も残すところあと3日という夜に編集後記を書いています。今年のお話は、ラグビー・ワールドカップもありましたが、何と言っても平成から令和に年号が変わったことでしょうか。平成の30年間は、私の人生の中では大学院での研究生生活に始まり、専門医試験、留学、手術手技の習得、術者経験の積み重ねという外科医が生まれ、成長して成熟期を迎える過程と重なります。一個人の力ではなく、優れた指導医（欧米ではmentor）に恵まれ、厳しい先輩の叱咤激励があり、数多くの手術の中で患者さんから学べたからこそ今日の自分があると感じています。30年の中で、私の専門分野（脳神経外科）では開頭術からカテーテルによる脳血管内手術へ大きなブレイクスルーがあり、顕微鏡手術から内視鏡・外視鏡手術へと手術手技は変遷しつつあります。これら二つの流れに共通するのは手術の低侵襲化、すなわち患者さんに優しい治療方法の探求です。次の時代では、手術のフィロソフィー（理念）という根底にある「変わらないもの」を後輩に伝え、変わるべきものは柔軟に変更して新しい手術法を取り入れたいと思っています。

さて、第9巻はさつこう会70周年にあたり、巻頭の辞を小川理事長にお願いしました。他に原著、症例報告、看護研究の区分で計11編が掲載され、いずれも専門性の高い、興味深い内容です。昨年に続き、各論文にはeditorial commentsを添えました。各専門分野での論文の位置づけ、内容理解を深める一助になるものと思いますので、本編とともに末尾のコメントもぜひご一読ください。今回も、一部は院外の先生にお願いしました。多忙な中をコメント執筆に時間を割いていただいた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

内視鏡や手術モニターに用いられる医用画像はHD（ハイビジョン）からフルHDへ、さらに4Kへと変わりつつあります。今後、本誌に掲載される論文の写真もグレースケールではわかりにくいので、プリント版以外にカラー写真を掲載した電子版を準備し、PDFファイルとして当院ホームページからダウンロードできるようにしたいと考えています。他にもご要望がございましたら編集部までお寄せください。

多根総合病院医学雑誌編集委員会

委員長：丹羽英記（院長）

副委員長：小川竜介（副院長）

委員：林 美樹（副院長）／瓦林孝彦（副院長）／川村 肇（多根記念眼科病院 副院長）／
小川淳宏（外科）／森 琢児（外科）／廣田哲也（救急科）／浅井 哲（消化器内科）／
青池太志（脳神経内科）／濱澤良将（放射線診断科）／久山陽一郎（整形外科）／
竹浦久司（医療技術部）／森本明美（薬剤部）／東有紀子（看護部）

事務局：上野 梢（総務課）／織田恵美（総務課）

多根総合病院医学雑誌

第9巻 第1号

令和2年3月 発行

編集兼発行 多根総合病院（代表：丹羽英記）

大阪市西区九条南1丁目12番21号

〒550-0025 電話 (06) 6581-1071(代)

FAX (06) 6585-2757

E-mail ikyoku@tane.or.jp

(担当 上野, 織田)

印刷所 シグマ紙業株式会社

大阪市西淀川区御幣島5丁目12番24号

〒555-0012 電話 (06) 6472-1321(代)